

DOUTOR



“To provide peace of mind and vitality through a delicious cup of coffee.”

株主のみなさまへ

第45期 中間事業報告書

2005年4月1日～2005年9月30日

café COLORADO

OLIVE TREE

Mauka Meadows

EXCELSIOR CAFE

Le Café Doutor

DOUTOR COFFEE SHOP

株主のみなさまへ



代表取締役社長

鳥羽 豊

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のことと存じ上げます。

さて、当社第45期中間期(2005年4月1日～2005年9月30日)の事業報告書をお届けいたします。

当中間期における飲食業界は、企業業績や雇用情勢にやや回復傾向が見られたものの、本格的な個人消費の回復には至らず、良好な経営環境とは言い切れませんでした。

このような状況の中、当社は、既存店対策として店舗の魅力を向上させるため、継続的かつ積極的に店舗改装を実施いたしました(当中間期末実績77店舗)。また、新商品投入などをタイムリーに行い、魅力ある商品提供にも努めました。新規出店につきましては、立地を厳選して質の高い出店を行うという基本方針のもと、積極的に新規出店を行い合計38店舗(直営店7店舗、加盟店31店舗)を新たに开店いたしました。当中間期における特徴は、昨年全国に7地区本部を設置したことによる効果が実を結びつつあり、特に西日本地区における出店が増加したことがあげられます。

一般卸売事業部門におきましては、チルド商品やドリップカフェなどのコンビニエンスストア向け商品の売上が好調に推移したことと、コーヒー原料の卸売が増加したことなどから当部門の売上高は計画を大幅に上回りました。

これらの結果、当中間期は前年同期に比べて増収増益となり、売上・利益ともに中間期では過去最高の業績をあげることができました。

当社を取り巻く経営環境は依然として厳しいものがありますが、これからも業績の向上に全社を挙げて邁進し、株主のみなさまへの利益還元積極的に取り組んでまいります。

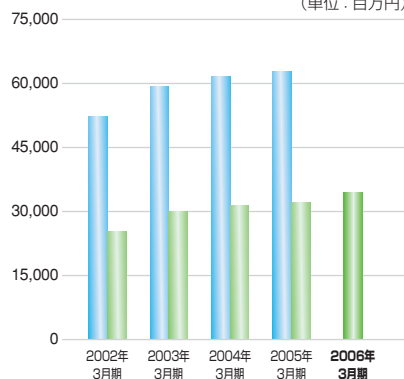
株主のみなさまには変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ハイライト (連結ベース)

■ 通期 ■ 中間期

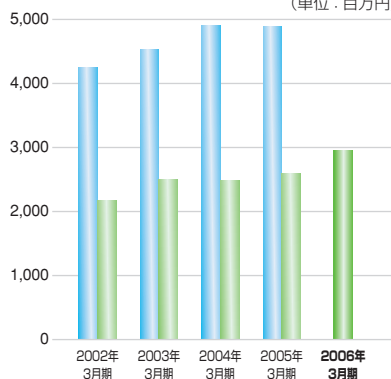
売上高

(単位: 百万円)



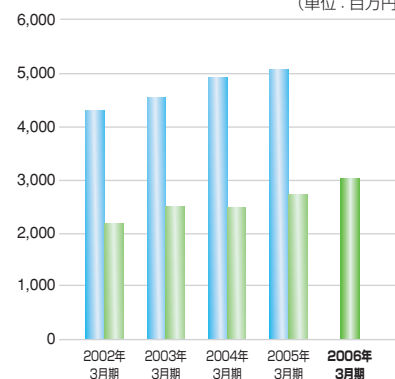
営業利益

(単位: 百万円)



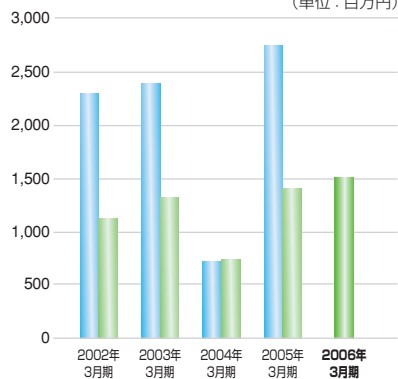
経常利益

(単位: 百万円)



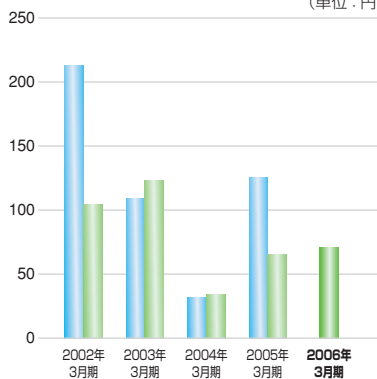
中間(当期) 純利益

(単位: 百万円)



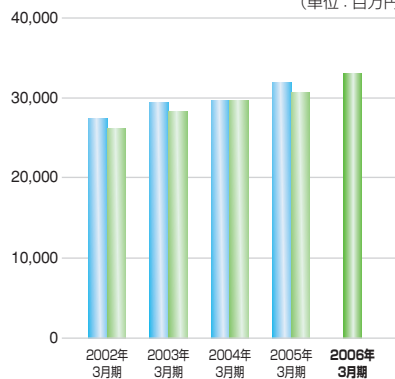
一株当たり中間(当期) 純利益

(単位: 円)



株主資本(期末)

(単位: 百万円)



※ 2002年11月に1対2の株式無償分割を実施しています。

※当社は現在、連結の業績を中心に開示しています。従って本報告書においても、特に注釈しない限り全て連結ベースの数字になっています。

事業概要

自社一貫体制による最高品質の商品を多様な形態で提供する——。
ドトールならではの強みがグループの成長を支えています。

ドトールグループは、コーヒー豆の調達から焙煎までを自社で一貫して行うことで高い品質を維持し、多くのお客さまから支持を得ています。

また、多様な店舗業態の展開から卸売まで、さまざまなかたちで商品・サービスを提供することで、強固な収益基盤を築いています。



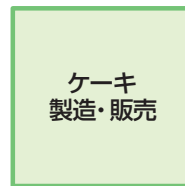
当社は、商品の品質を追求するために、コーヒー豆の調達に細心の注意を払っています。当社独自の基準により厳選された豆を世界約15カ国より輸入するほか、ハワイ島最大規模を誇る自家農園「マウカメドウズ(Mauka Meadows)」では、最高品質の「ハワイ・コナ」を生産しています。



熟練のノウハウを活かした焙煎設備と最新技術をもつ自社焙煎工場（関東工場と関西工場）にて、一括して行っています。



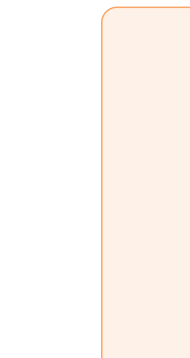
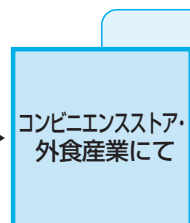
お客さまに永く愛される定番メニューを提供するとともに、新しい味と出会う期待感に応えるべく、新商品開発に取り組んでいます。



株式会社マドレーヌコンフェクショナリー
オリジナルケーキの製造・販売会社



株式会社マグナ
飲食業向けの厨房機器の販売会社



多彩なシーンでドトールブランドを楽しめる商品を提供

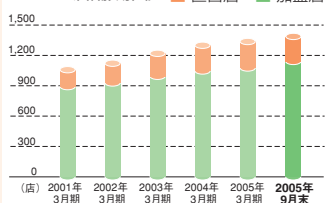
自社の加盟店だけでなく、全国の外食産業向けにコーヒー豆をはじめとする食材や厨房機器などの資機材を提供しています。喫茶店やレストラン、ファストフード店、ホテルといった数多くのお得意さまと安定したお取引を続けています。また、コンビニエンスストアに向けたオリジナル商品の開発や、食品メーカーなどドトールブランドを貸与することによるロイヤリティビジネスも推進。コーヒー飲料及びコーヒーフレーバー食品へのニーズに応えています。



多様な業態展開で、幅広い層のお客さまにサービスを提供

直営店及び加盟店展開により、全国で合計1,396店舗(2005年9月末現在)を展開しています。その最大の特徴は、多彩な業態展開により、嗜好やライフスタイルの異なる幅広い層のお客さまのニーズに応えていることです。コーヒーのさまざまな楽しみ方を提案する各種コーヒーショップやレストランなど、いずれの業態も良質なメニューとサービスにより高い支持をいただいています。市場ニーズを敏感に捉えた戦略的な店舗展開と、食材調達から機器に至る高効率経営を通じて、当社はお客さまの満足と収益性を両立させた抜群の安定経営を維持しています。

チェーン店舗数推移 直営店 加盟店



業態別店舗数 ※2005年9月30日現在

業態	直営店	加盟店	合計
ドトールコーヒーショップ	122	968	1,090
エクセルシオール・カフェ	102	28	130
カフェ・マウカメドウス	14	0	14
カフェ・コロラド	1	138	139
オリーブの木	6	8	14
ル・カフェ・ドトール	3	0	3
その他	3	3	6
合計	251	1,145	1,396



セルフサービスショップのバイオニア ドトールコーヒーショップ

誕生 1980年
ショップコンセプト さりげなく小粋
客単価 300円

今や“生活必需品”ともいえるセルフサービスコーヒーショップのバイオニア。広い客層をカバーする業界のトップチェーンとして抜群の集客力と収益性を誇ります。



本格イタリアンエスプレッソカフェ エクセルシオール・カフェ

誕生 1999年
ショップコンセプト イタリアンモダン
客単価 410円

本格的なイタリアンエスプレッソを楽しんでいただけるハイグレードなエスプレッソカフェ。都会的かつ洗練された“上質なくつろぎ”を提供する新業態です。



最高級ハワイ・コナコーヒーショップ カフェ・マウカメドウス

誕生 1996年
ショップコンセプト ハワイアンリゾート
客単価 800円

ショッピングビルなど商業施設を出店のターゲットとするカフェ。店名にもなっているハワイ島の自家農園で収穫される最高級のコナコーヒーを提供しています。



地域密着型コーヒー専門店 カフェ・コロラド

誕生 1972年
ショップコンセプト 健康的で明るく、老若男女共に親しめる店
客単価 520円

当社が最初にチェーン展開した地域密着型のコーヒー専門店。充実したフードメニューや売店でコーヒー器具販売などで地域のコーヒーファンに親しまれています。



スパゲティハウスの本格派 オリーブの木

誕生 1985年
ショップコンセプト おおらかなスパゲティハウス
客単価 1,000円

気軽にイタリアンテイストを楽しめるスパゲティハウス。独自開発の生麺やコックレスの画期的厨房システムを採用し、季節に応じたきめ細やかな販促活動を展開しています。



セルフ型最高級フレンチカジュアル ル・カフェ・ドトール

誕生 1998年
ショップコンセプト フレンチカジュアル
客単価 540円

銀座4丁目に代表される超一等地に照準を合わせたセルフサービスカフェ。ドトールの最高級セルフ業態として位置付けています。

営業の報告

ドトールコーヒーグループが展開する事業は大きく3つに分けられます。

小売事業

コーヒーショップの運営ノウハウの蓄積と出店立地の積極的な獲得及び人材育成を目的として直営店を展開しております。

卸売事業

加盟店向けの商品卸をはじめ、ロイヤリティ収入・加盟金収入、喫茶店・レストラン・ホテルなどの一般外食産業や食品メーカー向けの商品卸、コンビニエンスストアや量販店への商品卸の他、子会社による厨房機器の販売及びケーキ類の製造・販売を行っております。

その他の事業

加盟店の店舗設計などを行っております。

小売事業部門

- 直営店の運営

卸売事業部門

加盟店向け卸売

- 加盟店への商品卸売
- ロイヤリティ収入・加盟金収入

一般卸売

- 一般外食産業や食品メーカー向けの商品卸売
- コンビニエンスストアや量販店への商品卸売

多様な業態展開で幅広い層のお客さまへのサービスを提供

多彩なシーンでドトールブランドを楽しむ商品を提供

その他の事業

当中間期における事業別の営業概況は以下のとおりです。

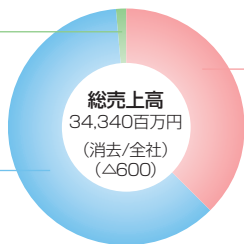
部門別売上高構成比率

その他の事業

1.4%
(503百万円)

卸売事業部門

61.1%
(21,358百万円)



小売事業部門

37.4%
(13,079百万円)

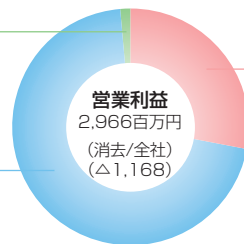
部門別営業利益構成比率

その他の事業

1.4%
(58百万円)

卸売事業部門

70.6%
(2,918百万円)



小売事業部門

28.0%
(1,158百万円)

小売事業部門

当中間期は、ドトールコーヒーショップ5店舗、エクセルシオール・カフェ1店舗、カフェ・マウカメドウズ1店舗の合計7店舗の直営店を新規出店いたしました。一方、不採算店を中心に6店舗を閉鎖、加盟店2店舗を直営化いたしました。また、積極的な店舗改装や季節に応じたタイムリーな新商品投入を行い、既存店収益の向上を目指しました。

これらの結果、当事業部門の当中間期売上高は130億79百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益は11億58百万円（同40.7%増）となりました。



卸売事業部門

当中間期は、加盟店31店舗（ドトールコーヒーショップ28店舗、エクセルシオール・カフェ2店舗、カフェ・コロラド1店舗）を新規出店し、加盟店向けの当中間期卸売上高は133億29百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

装店舗数が前年同期よりも少なかったにもかかわらず売上高を増加させることができました。また、株式会社マドレーヌコンフェクショナリーも、粗利益率が改善し、前年同期比で増収増益となっております。

加盟店向け以外の一般卸売事業につきましては、チルド商品を中心にコンビニエンスストア向け商品の売上が大幅に増加し、収益性も着実に向上しております。

これらの結果、当事業部門の当中間期売上高は、213億58百万円（同9.2%増）、営業利益は29億18百万円（同6.6%増）となりました。

連結子会社の株式会社マグナは、ドトールグループ以外の販売を強化した結果、新規出店数及び改



その他の事業

当中間期は、新規出店数が前年同期よりも6店舗少なかったことなどから、売上高は5億3百万円（前年同期比11.1%減）と減収となりましたが、設

計事業部原価の低減により営業利益は58百万円（同21.8%増）となりました。

営業の報告

営業活動の主な取り組み

ドトールブランドの価値向上を推進

3つの魅力をさらにブラッシュアップさせ、カフェチェーンのトップブランドとしてドトールブランドのさらなる価値向上を進めております。

1 より快適な空間作りのための店舗の分煙化

店舗の魅力をさらに向上させ、お客さまにくつろぎとより快適な空間を提供するため、積極的かつ継続的に店舗における分煙化に取り組んでおります。具体的には「①多階層の店舗では禁煙席と喫煙席を別フロアにする」「②1フロアの店舗では、入り口付近からレジ前席を原則禁

煙とし、奥の喫煙席の煙を屋外に排出する自動換気システムを導入する」などを基準に、店内全体のクリーンな環境を実現する改装を推進しております。直営店舗においては、すでにこれらの基準に則った環境整備を完了し、2005年度は主に加盟店における分煙環境の整備を進めます。



2 季節にあったメニューの開発と販売

お客さまのニーズを的確に捉え、常に最高の品質を追求しながら、新商品の開発に力を注いでおります。当中間期はドトールコーヒーショップにおいて、デザート感覚のドリンク「ゼリーインカフェ・ラテ」、コーヒーショップのドリンクとして定番化したフローズンドリンクの新メニュー

「フローズンピナコラーダ」やピリ辛のサルサソースを使用した「ペッパーハムベグル」と、季節にあわせたメニューを発売いたしました。今後も、毎日ご利用いただくお客さまでも飽きないメニュー開発を行ってまいります。



3 新たなファンを開拓するための多様な出店開発

昨年7月に全国の店舗開発・運営体制を強化するため、組織を改編して全国7地区本部制といたしました。これにより全国各地において、効率的できめ細やかな物件情報の収集や、加盟店募集などを進めることが可能となりました。同時に、出店後の店舗運営をサポートする機能

も強化いたしました。また、ガソリンスタンド併設型ドトールコーヒーショップは当中間期で100店を突破し、より一層認知度が高まっております。さらにショッピングセンター内や病院内といった立地も含めて全国各地での出店を拡大してまいります。



未来に向けた新たな取り組み

さらなる成長を見据えた組織経営を推進

全国3,000店舗体制に向けて質の高い人材の確保と育成に重点を置き、ソフト面での事業基盤の整備も進めております。

採用から人材育成、評価までを一貫して行う体制を確立

2005年8月に当社の社員採用部門である総務人事部と、ドトールコーヒーショップやエクセルシオール・カフェの加盟希望者や直営店配属社員の教育を担当するIRP経営学院を統合し、新たに総務人事統括本部を新設いたしました。採用から教育・育成、人事評価までを同一の統括本部内で一貫して行うことで、さらに質の高い人材の確保と育成を行ってまいります。これによ

り、今後3,000店舗体制に向け、店舗の経営力やサービスレベルの一層の向上を目指し、ひいては組織経営力の強化を実現してまいります。



リスク情報

コーヒー生豆価格相場及び為替相場変動のリスク

当社のコーヒー生豆買付けは、ニューヨーク生豆相場をもとに、商社より見積りを取寄せ、買付けを行っています。基本的には、見積り提示の時の為替相場で円建て仕入価格を確定させ、原料生豆の先物買契約を締結し、原料価格を安定させております。

コーヒー生豆相場は、ブラジルの大幅減産予想を契機に、2004年11月以降高騰しましたが、その後産地に降霜被害がなかったことや潤沢な降雨に恵まれたこともあり、最近ではほぼ高騰以前の水準に戻すなど日々変動しております。

このような状況下、当社は、ドトールコーヒーショップ、エクセルシオール・カフェなど店舗向けコーヒーに使用す

る生豆は、2006年6月使用分まで買付けを完了していません(2005年9月末現在)。このように当社が半年、1年先の買付けを行えるのは、当社が展開するドトールコーヒーショップなどのチェーン店が使用するコーヒー豆の量を正確に把握出来るためで、他のコーヒーロースターにはない当社の強みであります。

今後も原料生豆の買付けには、生豆相場、為替相場の動向を注視しながら慎重に行ってまいります。原料仕入価格の高騰が長期間継続した場合には業績に大きな変動を及ぼす可能性があります。

財務諸表（連結）

中間貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,978	10,446
受取手形及び売掛金	5,031	4,342
① 有価証券	7,099	1,899
たな卸資産	1,196	1,199
繰延税金資産	495	399
その他	1,116	1,079
貸倒引当金	△ 17	△ 39
流動資産合計	23,901	19,328
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,848	10,860
② 土地	2,975	4,041
その他	2,496	2,678
有形固定資産合計	15,319	17,580
無形固定資産		
投資その他の資産	1,944	2,062
差入保証金	9,843	9,848
繰延税金資産	862	797
その他	3,113	2,678
投資その他の資産合計	13,819	13,324
固定資産合計	31,083	32,968
資産合計	54,985	52,296

中間貸借対照表（連結）のポイント

- 有価証券**
安全性の高いコマーシャルペーパー及び銀行発行社債等にて一部資金を運用しております。
- 土地**
当社が東京都新宿区内に所有していた土地・建物を売却したことに伴い、帳簿価格が下がっております。

（単位：百万円）

科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,585	4,348
短期借入金	646	642
③ 一年以内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	10,000	—
未払法人税等	1,156	1,173
賞与引当金	469	440
その他	1,797	1,536
流動負債合計	18,654	8,140
固定負債		
③ 転換社債型新株予約権付社債	—	10,000
長期借入金	109	111
退職給付引当金	510	518
役員退職慰労引当金	830	803
その他	1,820	2,058
固定負債合計	3,270	13,491
負債合計	21,924	21,631
少数株主持分	—	—
資本の部		
④ 資本金	6,080	6,072
新株式払込金	1	—
④ 資本剰余金	6,720	6,712
利益剰余金	20,260	17,880
その他有価証券評価差額金	0	1
自己株式	△ 2	△ 2
資本合計	33,060	30,664
負債、少数株主持分及び資本合計	54,985	52,296

- 転換社債型新株予約権付社債**
償還まで1年以内となったため、固定負債から流動負債へ計上変更しております。
- 資本金、資本剰余金**
従業員によるストックオプションの行使に伴い、資本金及び資本剰余金が約16百万円増加しております。

中間損益計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日
① 売上高	34,340	32,056
売上原価	17,140	16,347
① 売上総利益	17,199	15,709
② 販売費及び一般管理費	14,238	13,122
③ 営業利益	2,960	2,587
営業外収益	68	163
営業外費用	12	23
③ 経常利益	3,017	2,726
特別利益	31	6
④ 特別損失	380	265
税金等調整前中間純利益	2,668	2,467
法人税、住民税及び事業税	1,100	1,124
法人税等調整額	61	△ 60
中間純利益	1,507	1,404

中間損益計算書(連結)のポイント

① 売上高、売上総利益

前年同期比22億83百万円(7.1%)の増収で、部門別では直営店売上4.6%増、加盟店向け卸売上2.6%増、一般卸売上25.5%増、その他の営業収入6.0%増となっております。

また、物流改革の効果等により粗利益率が前年同期比で1.1%ポイント改善しております。

連結子会社(株)マグナの売上高は、14億8百万円(前年同期比4.2%増)、(株)マドレーヌコンフェクショナリーの売上高は、4億68百万円(同14.5%増)といずれも増収を達成しております。

中間キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,149	3,119
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,047	△ 2,242
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 501	△ 475
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	61
現金及び現金同等物の増加額(又は減少額(△))	△ 393	463
現金及び現金同等物の期首残高	14,972	9,982
現金及び現金同等物の中間期末残高	14,578	10,446

② 販売費及び一般管理費

物流システムの変更による配送費の増加や株主数増加に伴う総会費用増などで一般経費は増加したものの、売上高の増加が直接的に人件費の増加を伴わない一般卸売上の増加によるところが大きかったため、人件費を含む売上高対販売費及び一般管理費率は、41.5%と前年同期比0.4%ポイント低下しました。

③ 営業利益、経常利益

ポイント①と②により、当中間期の営業利益は前年同期比で14.5%増、経常利益は同10.7%増となりました。

④ 特別損失

減損会計の導入に伴う直営店8店舗にかかる減損損失328百万円のほか、店舗改装等に伴う固定資産除却損(51百万円)を計上しております。

財務諸表（個別）

中間貸借対照表（個別）

（単位：百万円）

科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,845	10,260
受取手形	52	48
売掛金	4,692	4,048
有価証券	7,099	1,899
たな卸資産	674	778
繰延税金資産	483	389
その他	1,584	1,211
貸倒引当金	△ 15	△ 38
流動資産合計	23,418	18,598
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,417	10,299
土地	1,979	3,045
その他	2,455	2,742
有形固定資産合計	13,852	16,087
無形固定資産		
投資その他の資産		
差入保証金	9,809	9,814
繰延税金資産	797	731
その他	3,998	3,949
投資その他の資産合計	14,606	14,496
固定資産合計	30,392	32,629
資産合計	53,811	51,228

（単位：百万円）

科目	当中間期 2005年9月30日現在	前中間期 2004年9月30日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形	9	377
買掛金	4,139	3,582
短期借入金	623	618
一年以内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	10,000	—
未払法人税等	1,134	1,158
賞与引当金	430	410
その他	1,712	1,465
流動負債合計	18,049	7,613
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	10,000
長期借入金	101	80
退職給付引当金	470	481
役員退職慰労引当金	818	794
その他	1,810	2,048
固定負債合計	3,200	13,404
負債合計	21,250	21,018
資本の部		
資本金		
新株式払込金	1	—
資本剰余金	6,720	6,712
利益剰余金	19,760	17,426
その他有価証券評価差額金	0	1
自己株式	△ 2	△ 2
資本合計	32,561	30,210
負債・資本合計	53,811	51,228

中間損益計算書(個別)

(単位:百万円)

科目	当中間期 2005年4月1日～ 2005年9月30日	前中間期 2004年4月1日～ 2004年9月30日
売上高	33,087	30,969
売上原価	16,249	15,619
売上総利益	16,837	15,349
販売費及び一般管理費	13,890	12,805
営業利益	2,946	2,544
営業外収益	24	139
営業外費用	2	19
経常利益	2,968	2,664
特別利益	31	6
特別損失	380	265
税引前中間純利益	2,619	2,405
法人税、住民税及び事業税	1,080	1,111
法人税等調整額	58	△ 63
中間純利益	1,481	1,358
前期繰越利益	699	487
中間未処分利益	2,180	1,846

● 株主優待制度のお知らせ

株主優待制度についてご説明いたします。

対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された一単位(100株)以上保有の株主さまを対象とさせていただきます。

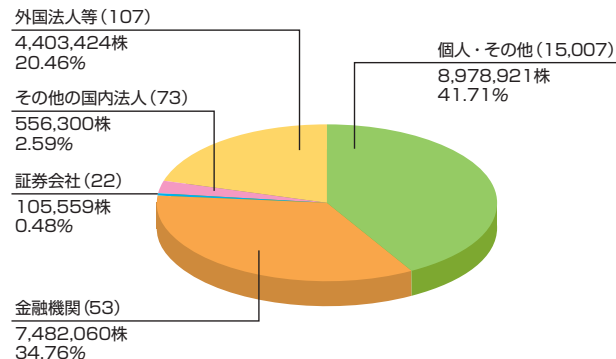
優待制度の導入

- 100株以上500株未満の株主さまに
2,500円相当のコーヒーギフトセット贈呈
- 500株以上の株主さまに
4,500円相当のコーヒーギフトセット贈呈

贈呈期間

毎年7月の贈呈を予定しております。

所有者別状況 (カッコ内の数値は株主数)



会社が発行する株式の総数	50,000,000株
発行済株式総数	21,526,264株
株主数	15,262名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
鳥羽博道	5,500	25.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,521	11.71
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,310	6.08
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	655	3.04
クレディ アグリコル セルビスサントラルド タイトル プリュノワ	445	2.07
住友信託銀行株式会社(信託B口)	411	1.91
株式会社みずほ銀行	318	1.48
資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口)	302	1.40
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツィー アイエスジー	272	1.26
日本生命保険相互会社(特別勘定年金口)	236	1.10

会社概要

2005年9月30日現在

商号	株式会社ドトールコーヒー
設立年月	1962年4月
資本金	60億8,047万円
事業所	1. 本社 東京都渋谷区神南一丁目10番1号 2. 工場 関東工場(千葉県船橋市) 関西工場(兵庫県加東郡東条町) 3. 本部等 営業本部 (東京都渋谷区) 北海道地区本部 (札幌市中央区) 東北地区本部 (仙台市青葉区) 関東地区本部 (東京都渋谷区) 東海・北陸地区本部 (名古屋市中区) 近畿地区本部 (大阪市中央区) 中国・四国地区本部 (広島市中区) 九州地区本部 (福岡市中央区) 4. 直営店 251店舗
主要な事業内容	1. コーヒーの焙煎加工並びに販売 2. 食品の仕入、販売及び輸出入 3. 飲食店の経営 4. フランチャイズチェーンシステムによる飲食店の募集及び加盟店の指導
従業員数	852名

子会社	株式会社マグナ(連結子会社) ●資本金/100百万円 ●当社の出資比率/100% ●主要な事業内容/厨房機器の販売
	株式会社マドレーヌコンフェクショナリー(連結子会社) ●資本金/430百万円 ●当社の出資比率/100% ●主要な事業内容/ケーキ類の製造・販売
	株式会社ドトールコーヒーハワイ(非連結子会社) ●資本金/1,604百万円 ●当社の出資比率/100% ●主要な事業内容/コーヒー農園の管理・運営
	株式会社ジャマイカコーヒー(非連結子会社) ●資本金/10百万円 ●当社の出資比率/100% ●主要な事業内容/コーヒー豆の販売
	(注)非連結子会社は、持分法非適用会社であります。

取締役、 執行役員 及び監査役	代表取締役会長 鳥羽 博道 代表取締役社長 鳥羽 豊 取締役副社長 星野 正則(店舗開発統括本部長) 常務取締役 大坪 剛(生産管理統括本部長) 常務取締役 黒川 敏彦(設計管理統括本部長) 常務取締役 足立 荒男(管理統括本部長兼経営戦略室長) 執行役員 青木 幸隆(DCS西日本本部長) 執行役員 小野 洋(営業本部長) 執行役員 湯浅 健二(総務人事統括本部長) 常勤監査役 宮林 哲夫 監査役 財前 宏 監査役 梶川 浩 監査役 竹本 繁
-----------------------	---

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月に開催します。
基準日	3月31日 そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告して 基準日を定めます。
1単位の株式数	100株
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先/ お問い合わせ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀1-17-7 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-288-324
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告の方法	当社の公告は、電子公告により行います。 (ただし、電子公告によることができない事故その他の やむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行 する日本経済新聞に掲載して行います。) [電子公告] http://www.doutor.co.jp/ir/jp/e-discl.html [決算公告] http://www.doutor.co.jp/ir/jp/e-fystmt.html

株式会社ドトールコーヒーでは、株主・投資家のみなさまの利便性や
情報提供の即効性を考慮し、財務データや決算資料の詳細を
ホームページ上で公開しております。本報告書と合わせてご参照ください。

<http://www.doutor.co.jp/profile/index.htm>

見直しに関する注意事項

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは、ドトールコーヒーの将来に関する見直し
及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が
含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見直しとは大きく異なる場合があります。



本社 〒150-8412 東京都渋谷区神南一丁目10番1号
Tel. 03-5459-9008(代表) <http://www.doutor.co.jp>

この印刷物は、再生紙を使用しております。